

2023年7月10日～11日に函館水産試験場試験調査船「金星丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分・溶存酸素・流向流速の観測結果をお知らせします。
(函館水産試験場のHPからご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

【水温の鉛直分布】

調査海域の20m以浅の水温は平年より高くなっており、特に表層は20℃を超えています。一方で湾内の深度20~40mの水温は平年並みになっています。また、南側の湾外から湾口にかけて（St.08, St.22）の水温は表層から25m深までは平年より2~4℃程度高くなっています。

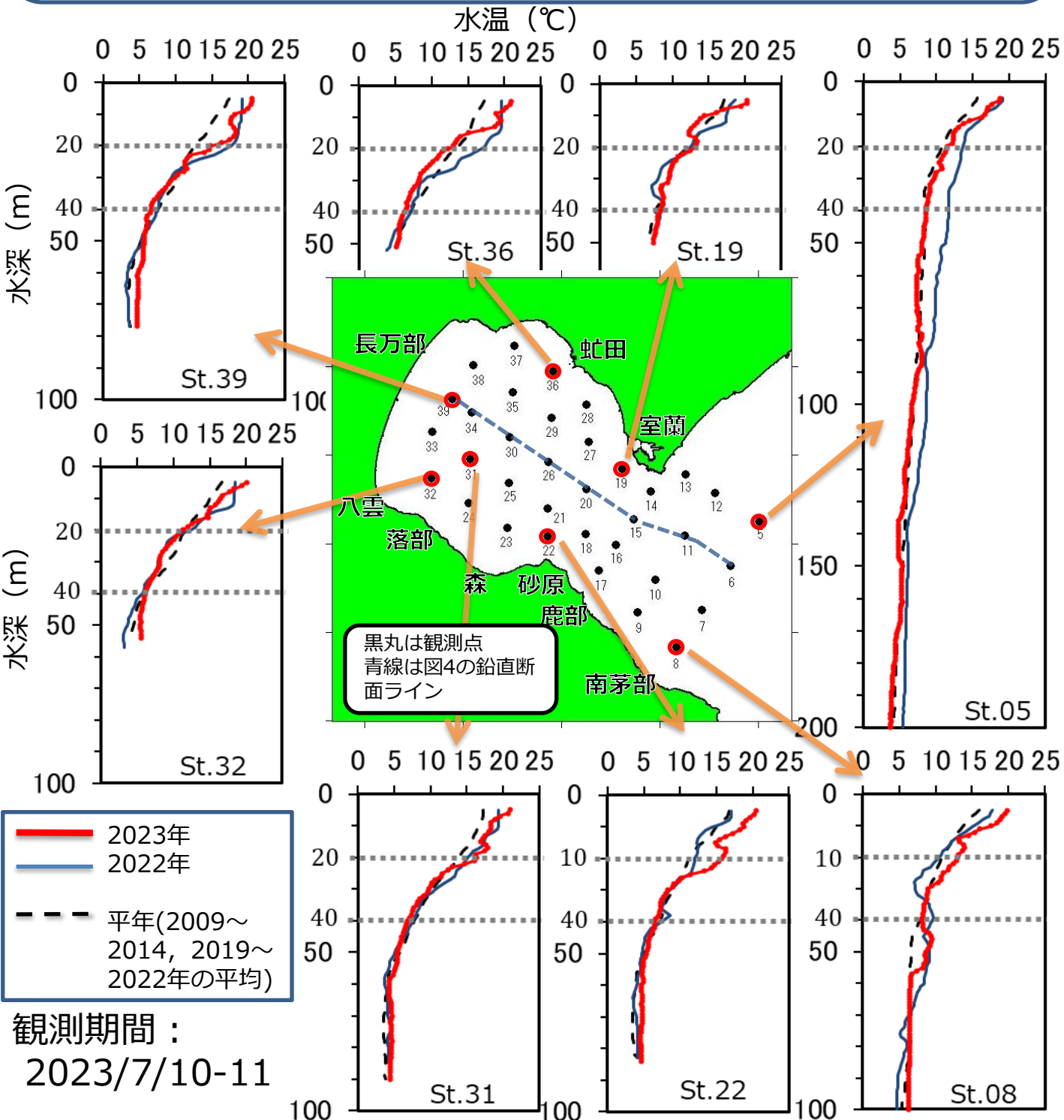


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布

【水平分布：水温，塩分，流向流速】

噴火湾内の表層では5，6月に引き続き時計回りの渦が形成されています（図2A）。深度10mの水温は湾内中央付近では19℃以上と高く，湾口部では14～16℃であり3℃以上の差がありました（図2B）。深度10mの塩分は湾中央部は32.0以下ですが，湾外は32.5以上と湾内より高くなっています（図2C）。

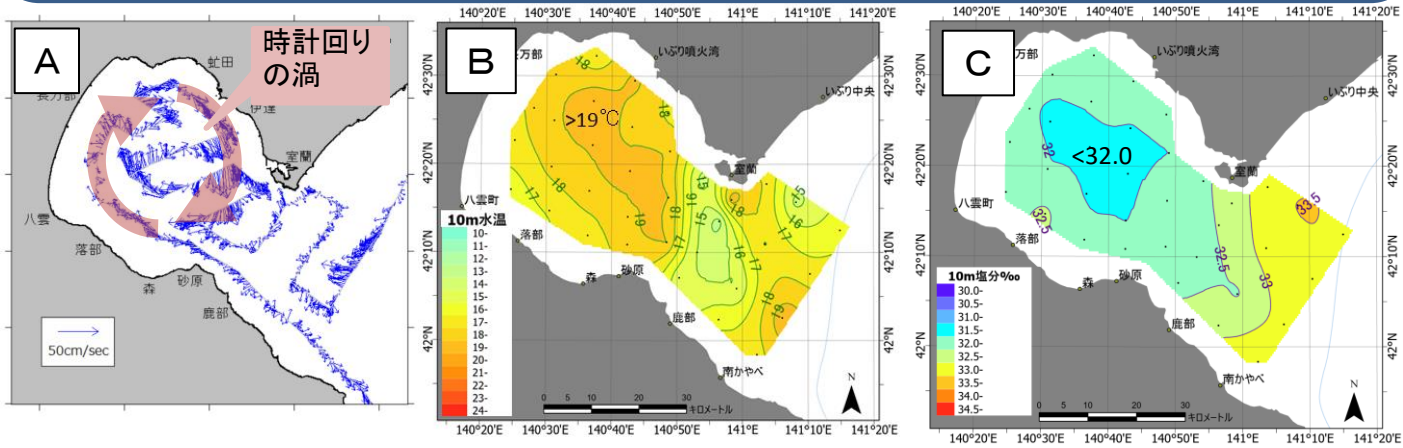


図2 A:流向流速（深度13m），B:水温（深度10m），C:塩分（深度10m）

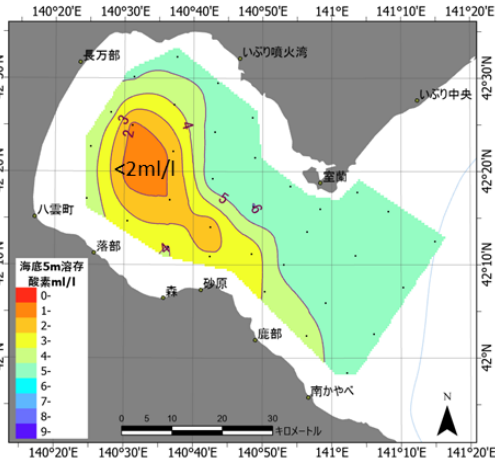


図3 溶存酸素の分布（海底上5m）

【溶存酸素の分布】

海底上5mの溶存酸素量は，1.4～6.0ml/Lで，6月（3.8～6.2ml/L）よりも低下しており，湾中央部から渡島寄りの海底を中心に、貧酸素水（3.0ml/L以下）が広がっています（図3）。

【水温，塩分の鉛直断面分布】

噴火湾内の深度20m以浅には，日射と河川水の流入により高温低塩分化した夏季噴火湾表層水（水温18℃以上，塩分32.0以下）が分布しています。一方，深度50m以深は水温が6℃以下であり，表層と底層の水温差が大きくなっています。津軽暖流水（水温6℃以上，塩分33.6以上）は噴火湾湾口近くの深度30m以深に達していますが，湾内にはまだ流入していません（図4）。

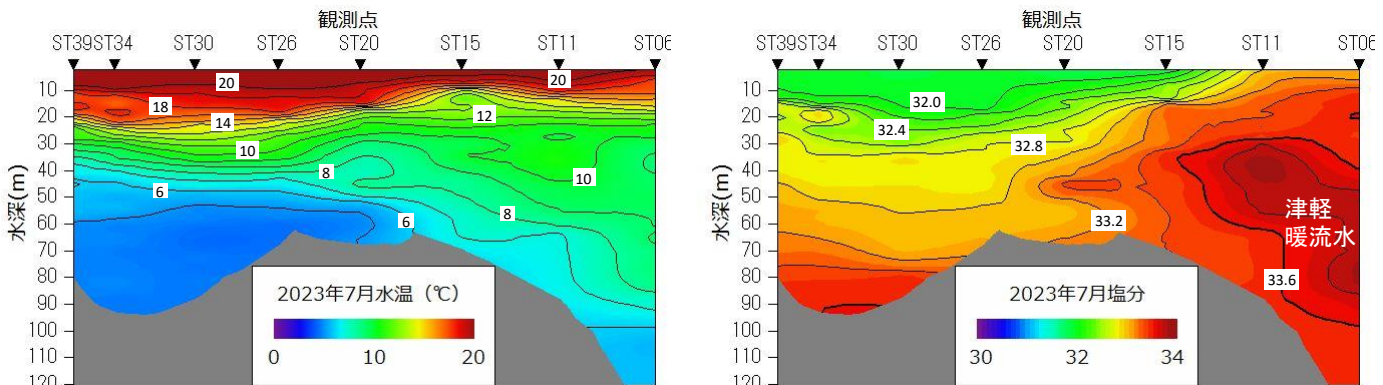


図4 水温・塩分の鉛直断面図（断面上部の▼は観測点）
鉛直断面の位置は図1の青破線を参照